



# わの会通信

Ver. 34

◆ H29. 4. 15 発行 発行元：NPO 法人わの会 住所：府中市住吉町 1-60-10 TEL/FAX：042-360-3626 ◆



## NPO法人わの会 20 周年記念事業総括

### いのちかがやけコンサートを終えて



この度は、1 月 28 日に公演致しましたコンサートに大勢のみなさまの温かいご協力を頂きましたことに、心からの御礼を申し上げます。おかげさまで 450 人を超える方々の御参加をいただき、障害を抱えて生きる方々や高齢期を生きる方々への理解と支援の「わ」がもう一つ大きく広がったように感じることができました。

☆☆☆ 当日アンケートから ☆☆☆



コンサート看板製作：畠山汐美

#### ◇ わの会有志のコーラス ◇

- 参加者が醸し出す雰囲気優しく、どんな人も受け入れてくれる優しさと力強さがある。特にこの頃の悲しい情勢の中こんな空間に逢えて幸せでした。
- 心をこめて一生懸命に歌った「わの会」有志の皆さんは会場の皆さんの気持ちを和ませてくれました。



#### ◆ 三多摩青年合唱団 ◆

- 三多摩青年合唱団の“美空ひばり作品集”の混声合唱は素晴らしく、その美しい合唱の連続に私は感

動し、会場一杯の大きな拍手が鳴りやまなかった。

- ひばりの歌に共感できた。思いが込められた人生の歌だったとは。テーマにふさわしい内容でした。
- 三多摩青年合唱団の「一本のえんぴつ」が特に良かった。三多摩青年合唱団が歌って、ひばりさんの平和への想いの深さを伝えているところが素晴らしいと思ひました。



#### ◇ 今回のコンサートの全体を通して ◇

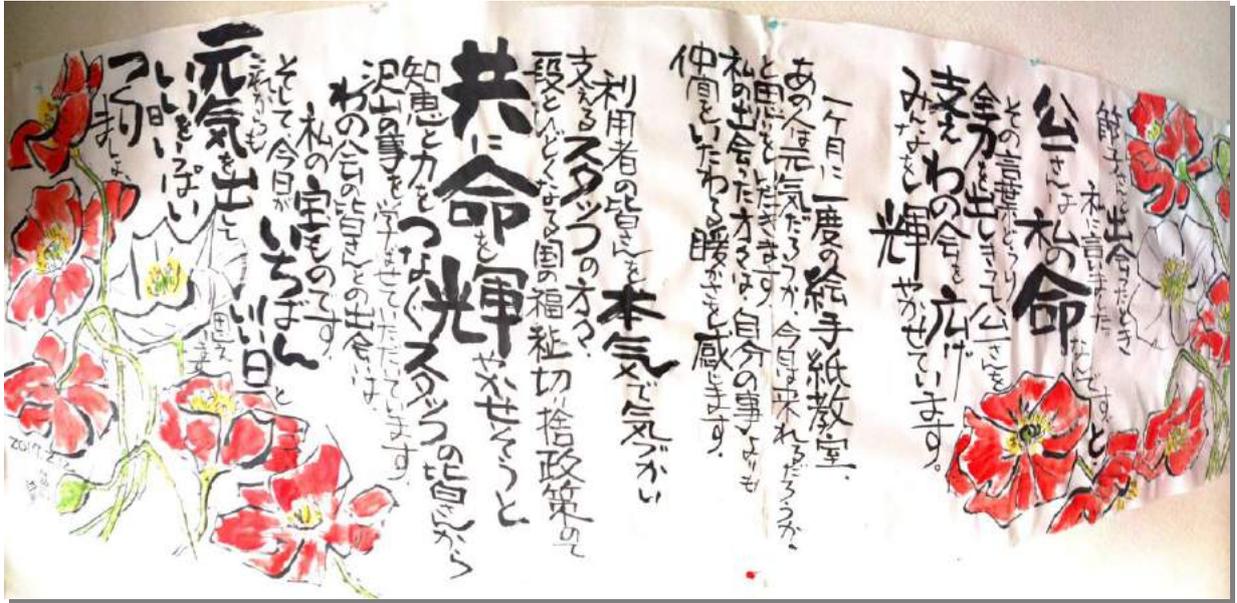
- 気配りのできる若い職員達を見て一緒にいたら生きたいと思わせるでしょう。
- わの会のような精神が市民のなかに、大きな川の流れのようになったら素晴らしい国になるでしょう。このような感想をお寄せ頂き、わの会活動の今後に大きな励みとなりました。重ねて御礼申し上げます。

コンサートから 2 カ月経ちました。福祉分野の厳しさは増すばかりですがこれまで以上に「支え合う「わ」、共につくりあげる「わ」、みんなの想いをつなぐ「わ」】の理念の実践のため力を合わせてまいりたいと思ひます。最後に、後援を頂きました府中市、御挨拶(コンサートプログラム)を頂きました府中市社会福祉協議会の各位に感謝を申し上げ、御礼とさせていただきます。

# わの会20周年レセプションを終えて

2月12日に行われた「わの会20周年レセプション」では、80の方が参加され、長期にわたり、わの会活動に物心ともにご協力を頂いた方々、それぞれの事業立ち上げ時に力を発揮された元スタッフ等、27人の方々に感謝状を贈呈し、10年以上勤務されている19人のスタッフの表彰を行いました。

当日下記の絵手紙を掲げて、御挨拶された絵手紙の畠山汐美先生は、「15年間、一緒に歩いて来てさらに今後のわの会への期待を」と述べて頂きました。



## 利用者や御家族、参加者の発言とメッセージから明らかになったこと

わの会活動に参加することで、生きがいを感じている利用者さんがおられること、地域にあって頼りにしているといわれる利用者さんがおられること、そして、重い認知症を抱えている利用者さんの家族はどんな状況であっても命長らえてほしいと願って介護にあたっていること、細やかな介護、優しい介護に感謝しているという声、元スタッフからはわの会での仕事がきっかけで介護食調理師の資格を取ったり、自分でもデイサービスをつくったりと学びのきっかけをつくってくれたわの会でもあったことが語られました。

## 2つの行事を通して明らかになったこと

- ① 多くの障害を抱えて生きる人々、高齢期を生きる人々への理解と支援の輪がこれまで以上に広がった。
- ② 全スタッフが改めてわの会の理念にたちかえる取り組みになりえた。
- ③ 理念実績のために求められる新たな取り組みの必要性を確認できた。
- ④ 短期計画、長期計画の作成の必要性を痛感。
- ⑤ 法人としての6事業運営にあたり新たな力を共有できた。
- ⑥ 未来構想のショートステイ、グループホーム、老人ホームなど

# 2017年度わの会事業の課題

- ① 利用者、家族の期待に、要望にこれまで以上に応えられるよう、ケアの向上に努める。
- ② スタッフ間の連携、情報交換、励まし合い、正し合いを十分に行い、働きがい作りに努める。
- ③ それぞれの事業の赤字克服に努力する。
- ④ デイサービスの分離を成功させる。
- ⑤ 法人のあり方を検討する。当面認定 NPO か、社会福祉法人か。

ヘルプーステーション  
あいあい



## 1. 現状報告

区分	ヘルパー(常勤 3 名含む)	利用者
人数	64 名(学生 22 名 一般 42 名)	45 名
種別	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護福祉士 12 名(重複あり)</li> <li>・介護職員初任者研修 6 名</li> <li>・ヘルパー2 級 18 名(重複あり)</li> <li>・ガイドヘルパー 18 名(重複あり)</li> <li>・重度訪問介護従事者 25 名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ALS 7 名</li> <li>・視覚障害 17 名</li> <li>・知的障害 4 名</li> <li>・高齢者 8 名</li> <li>・先天性障害 6 名 (染色体異常・脳性麻痺他 8 歳 2 名、20 代 4 名)</li> <li>・身体障害 2 名</li> <li>・重度障害 1 名</li> </ul>

資料 (2017年3月18日)

## 2. 労働条件に対する改善要望(あいあいヘルパーアンケートより)

### ◆サービス提供責任者 (以後サ責) 不足

① サ責の補充がなしで 1 年経過、現サ責の事務時間が少なく、定期的な会議も出来ないことで、シフトが遅い・連絡がつかない・研修不足等としてあがっている。(利用者 1 件あたりの時間数増、年間総時間数 2 月現在昨年度より 1241 時間増)

② 毎日訪問をしている長時間の利用者宅 (月 450 時間以上 2 名) を週に 1 日、他事業所へ移行する。そこに新規利用者の訪問を検討していきたい。

③ シフトやマニュアル・連絡事項のミス等、要望や意見・苦情が多い。これまで弱い部分に対して力を入れ改善していきたい。

### ◆利用者の要望とケアの範囲について

利用者の要望に寄り添うケアの中で、利用者・ヘルパー両者の安全を最優先し、緊急時を予測した上で実現に向けて苦慮している。利用者の要望にと対応できるケア内容との不一致により働きづらい状況になっている。

「家族のように、友人のように対応してほしい」という利用者の要望もあるが、それにより様々な問

題がでてくる。これらの課題を、ヘルパーの意見・不安を聞き取り、ヘルパーが安心して働けるよう環境を整えることが今後の課題である。



## ◆ヘルパーの要望に関して

要 望	事業所の対応
 <p>勤務地が遠いのは市外のため仕方がないと思っていますが、たまに負担に感じることがあります。府中地域福祉、市報、市の状況がわからない事があり、なじみが無く孤立していると感じる事があります。</p>	 <p>介護や福祉に関することで府中市の広報に掲載されたことは、あいあいニュースでお知らせ致します。情報交換の場や経験交流の場、事例検討の場を増やします。</p>
 <p>定期的な（半年/1年）シフト変更は？利用者さんによるけれど…。</p>	 <p>シフト変更に関しては1年ごとにかわる事業所もある。あいあいとしては利用者に寄り添って長期にわたり同じヘルパーが訪問しているケースも多々ある。どちらのメリットもデメリットも明らかにして対応していく。</p>

## 3. 2017年に向けて

- ①仕事量を削減し、サ責の定期的な会議を開催し、担当サ責以外でも、利用者・ヘルパーからの相談等に対応が出来るよう情報共有を図っていく。また外部等の研修に参加しスキルUpを目指していく。
- ②ALSの介護には、コミュニケーションや医療行為を含めた介護技術を習得する必要があり、指導する側の指導方法についても計画性を持ち、関係団体との連携と共に、研修体制を確立していく。
- ③ガイドヘルパーは、絶えず危険のないように周囲に気をつけていなければならず、精神的な疲労が大きい。また、常に利用者と密着して歩くため、技術の正確さ（それぞれの利用者によって異なる）や利用者との相性が大切になってくる。臨機応変に入れる

ヘルパーの確保も必要である。ケアに対する利用者ごとの担当者会により現状の問題点を明確にし、スキルアップ講座も定期的に行っていく。

- ④現在、学生が22名登録している。昨年は学校の中退者が2名いた。その若者たちが介護の世界で生きていけるよう対応したが結果的に2名とも退職となっている。若者の定着・学生たちに介護にかかわってもらえるよう今年力を入れていきたい。また学生特有の悩みである進路の相談や、実習に向けての心構えなどは、先輩学生の実習の心構えをメールで集めて後輩学生にメールを送っている、理事長の取り組みに学びながら、若者の育成に努めていきたい。

デイサービス

りんりん

認知症対応型デイサービス

第2りんりん



## 認知症の進行にとまどう家族に寄り添って、御本人が不安なくすごせる介護を

### ◆りんりんの認知症対応ケアの事例◆

Nさん(67歳)要介護5、病名:若年性アルツハイマー型認知症(発症60歳)28年5月より通所しています。当初より中核症状(記憶障害、失認、失行、見当識障害、理解力、判断力)の低下がみられましたが、もともとの性格である明るさ、優しさは持続されていました。

8月にガン告知を受け、医師からは、「手術は無理」と言われたとのこと。家族はどうしたらいいかわか

らないとスタッフに相談し、スタッフは「発症時の大学病院なら、認知症とガン、それぞれの専門医が連携して対応できるのではないかと」アドバイスをしました。

家族とともにNさんが大学病院を受診した結果、「2つのチームを作り手術の方向で検討開始」されたことを知り、家族も少し安心されました。しかし、その後、Nさんがショートステイを利用した際、スタッフとトラブルになり、スタッフが怪我をするという事態が発生し、ケ

アマネージャーと主治医に処置入院をすすめられました。処置入院後Nさんはベッド上で点滴栄養ですごすことになりました。家族は、「歩かせてもらえない。口から食べさせてもらえない」とりんりに相談。スタッフは「自宅に戻られた場合は、これまで通りできる限りの協力はおしまない」ことをくりかえしてお伝えしました。家族は間もなく退院させ、翌日からりんりに通所することになりました。

残念なことに、その後もNさんの認知症は進行しています。りんりんでは、いわゆる「問題行動」という枠ではとらえず、認知症状の進行(理解力の低下による日常生活へのとまどいと受け止め、原因を探りつつ、本人が不安なく過ごせる支援の仕方を探求し合っています。

時間をかけて話を聞き、語り掛けて本人の納得を引

## 今後の課題について

1. 家族との懇談会を増やす 同じ悩みを抱えた家族同志が集まり話し合うことで元気をもらい、さらなる介護力に繋がるようにしたい。
2. 第2りんりの移転を成功させる。 H28年度の失敗から学んだことを生かしながらすすめていく。
3. ADL(日常生活動作)を向上させるためのケアの研修に力をいれる。
4. 地域交流をはかる 地域の子供たちや、高齢者との交流をはかり、利用者以外の介護等も受けられるような体制をつくっていく。

自立支援ネットワーク  
わの会



## 最近の相談活動で思うこと…



府中自立支援ネットワークわの会は、障がいをもった人たちが、住みなれた場所で、自立して暮らしていけるように、生きがい活動や相談活動、交流活動を続けています。

き出す介護に努めています。家族の介護負担軽減のため泊りも行います。その際、眠剤など使用せずNさんが眠くなったと思える状態まで一緒に過ごし、その後ベットへ誘導することで朝まで熟睡可能です。このようなNさんの症状から私たちはケアマネージャーにショートステイの施設利用も可能ですとの報告をしています。



絵手紙教室やコーラス教室、外食会、ミニデイサービスを定期的に行っていますが、最近の相談活動では寄せられる要望として「介護保険では賄えない高齢期の問題」が多くなっています。

ご夫婦で特養に入所されたAさんは、お二人とも車椅子移動のため外部の病院を受診したくても二人で動くことは難しい状態にあります。施設では人手が足りず、時間のかかる受診に付き添うことが難しいとのこと。また、特養に入所した場合ヘルパーを介護保険では使えません。自費のヘルパーは夫婦二人分必要になります。「何とか助けてほしい」とわの会に相談が有りました。

また、現在はひとり暮らしをしているものの、年を取り、生活が難しくなっている人が増えています。地域での暮らしが難しくなった時、障害があること

で更に受け入れ先が限られてしまったり、場合によっては行き先が無く、遠くの施設や病院へ独りで入所する覚悟でいる人もわの会では増えてきました。

障がいを持ちながら自立生活を頑張ってきた人

## わの会相談支援



わの会相談支援は障がいの種類や年齢に関わらず計画相談を受けていますが、現在の最年少は生後4ヶ月の赤ちゃんです。ダウン症との診断を受けましたが医療とはまだ繋がっておらず(多摩療育園は2ヶ月待ちとのことでした)、家族としても圧倒的に情報が少ない状況です。親御さんとしてはどうしていいか判らないが「普通に接してくれる」と評判の児童発達支援に預けたいとのことでした。

わの会としても新生児の依頼は初めてですが、一番大変なのは情報の少ないご本人ご家族です。ダウン症は、府中市内には当事者会がなくなってしまっ

たちが、いよいよ老いを自覚し、向き合わざるを得なくなっている。わの会の高齢問題も待たなしであると感じます。

たことで市内の最新情報は得にくくなっているとのことでした。さいわい、わの会で計画を受け持っている他のご家族に連絡を取ることができ、情報のネットワークを組むことができましたが、何よりこれから始まる支援計画を、わからないところを乗り越えて、このご家族に寄り添いながら組めたらと思います。

現在わの会相談支援は40名の登録が有り、月平均13件ほどの計画作成やモニタリングを行っていますが、どれ一つとして同じものはなく、それぞれにその人の暮らしがあります。

## わの会研修事業



わの会研修で取得できる重度訪問介護の資格は、最も短期間で取れるヘルパーの資格ですが、現在重度の障害を持っている方の在宅における24時間介護を支えているのは、まさに重度訪問介護ヘルパーです。

平成28年度のわの会研修では30人のヘルパーを世に送り出すことができ、資格を取得した多くの人がヘルパーに従事して重度障害を持つ人の地域における生活を支えています。

受講生の多くは看護師や社会福祉士を目指す学生で、彼らは資格を取ってヘルパーに従事しても、卒業すると更なる高度な仕事に就くために離れていってしまいます。

しかし、研修やヘルパーとして働いて学んだこと

は学校だけでは得られなかったことで、今の仕事にとっても役立っているとのメールをいただきました。わの会研修が役に立っていることはとても喜ばしいことですが、新しい道に進む人たちがいる分、さらに新しいヘルパーを増やすために、今年度もたくさんの方の受講生を迎えられるよう頑張っていきたいです。

### 重度訪問介護従事者養成研修講座

#### 平成29年度予定

第1回	5月20日、21日
第2回	7月22日、23日
第3回	10月21日、22日
第4回	3月17日、18日



特定非営利活動(NPO)法人 わの会

〒183-0034 府中市住吉町1-60-10

TEL(代表):042-360-3626

わの会 HPはこちら→

<http://www.wanokai.com>



### 【6つの事業】

デイサービスりんりん (通所介護)

デイサービス第2りんりん (認知症対応型通所介護)

ヘルパーステーションあいあい (訪問介護)

府中自立支援ネットワーク わの会 (自立支援)

重度訪問介護従事者養成研修講座 (研修事業)

わの会相談支援事業 (相談事業)